

PRAEVIDENTIA DAILY (10月2日)

昨日までの世界：ドル/円が突如調整

昨日は米株安、米中長期債利回りの大幅低下とドル/円の突然の大幅調整が特徴的だった。背景としては、ISM 製造業景況指数が 56.6 と前月および市場予想を下回ったほか、米国内で初のエボラ出血熱感染者が出たことが米株安や利回り低下に繋がったようだ。なお、ドルはその他通貨対比ではあまり調整は見られていない。

ドル/円は、日銀短観で大企業製造業の業況判断 DI は 13 と前回と市場予想を上回った一方、大企業非製造業の業況判断 DI は逆に 13 と予想比大幅に悪化するなどまちまちであったことから、発表直後の反応は鈍かったが、全規模全産業では前回の 7 から 4 へ低下、全体としては悪化が確認されたためか、程なくして円売り圧力が強まり、110 円乗せとなった。その後欧州時間は 109 円台後半で横ばいとなった後、NY 時間入り後、ADP 民間雇用統計は+21.3 万人とほぼ市場予想通りだったが 109 円台半ばへやや軟化、そして ISM 製造業景況指数が悪化すると、米中長期債利回りの更なる低下と共にドル/円も続落、本日早朝にかけ一時 109 円丁度を割込んだ。

豪ドルは、豪小売売上高が前月比僅か+0.1%と市場予想の+0.4%を下回ったことから対米ドルで一時 0.8660 ドルと 2 月の年初来安値目前へ下落した。但しその後は、米ドル安に押し上げられほぼ前日終値近辺へ持直した。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

変化する通貨ペア	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	-0.7	-0.06	-0.06	-0.00	-0.12	-0.12	+0.00	-1.3	-0.6	-0.5	-0.5
変化する通貨ペア	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	-0.1	+0.06	-0.00	-0.06	+0.08	-0.04	-0.12	-0.9	-1.3	-0.5	-0.04
変化する通貨ペア	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.2	+0.03	-0.04	-0.06	+0.05	-0.07	-0.12	-1.0	-1.3		
変化する通貨ペア	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	-0.1	+0.04	-0.02	-0.06	+0.12	+0.00	-0.12	-1.3	+0.0	-0.2	
変化する通貨ペア	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	-0.3	+0.04	-0.02	-0.06	+0.08	-0.04	-0.12	-1.3	+0.0	-0.2	
変化する通貨ペア	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	-0.3	-0.04	-0.06	-0.02	-0.05	-0.12	-0.07	-1.3	-0.5	-0.2	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

(出所) トムソン・ロイター、プレビデンティア・ストラテジー

きょうの高慢な偏見：ハト派の発言力を再検証

きょうの注目通貨：USD/JPY↓、EUR↓

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
本邦短観企業物価見通し・1年後前年比	8:50	1.5%		前回物価見通し：3年後1.6%、5年後1.7%
豪8月貿易収支・豪ドル	10:30	-13.59億	-7.0億	
豪8月建設許可件数・前月比	10:30	+2.5%	+1.0%	
英9月ハリファクス住宅価格・3か月前年比	16:00	+9.7%	+9.7%	
英9月建設業PMI	17:30	64	63.5	
ECB金融政策決定・政策金利	20:45	0.05%	0.05%	市場予想は政策変更なし
Draghi・ECB総裁定例記者会見	21:30			
米新規失業保険申請件数	21:30	28.0万人	29.7万人	
Dudley・NY連銀総裁発言	1:00			ややハト派、投票権あり
Lockhartアトランタ連銀総裁発言	2:00			ハト派、投票権あり

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

本日は ECB 政策理事会が注目される。今回は政策変更は予想されていないものの、前回理事会で実施方針が発表された資産担保証券・カバード債券買取プログラムの詳細が Draghi 総裁記者会見で発表される予定だ。ロイター調査によると買取総額は年間で 2,000 億ユーロ程度となる見込みで、的を絞った資金供給（TLTRO、テルトロ）の予定額 1 兆円と比べると小さく、実体経済に対する押し上げ効果や市場への実際のインパクトは限定的だ。但し、30 日に英 FT 紙で報道された通り、現在は投資適格（トリプル B）債券のみを対象としていたのに対して、ギリシャやキプロスの債券も買取できるよう適格基準を引き下げると、買取可能対象が拡大するため、買取総額（予定）が 2,000 億ユーロを上回る可能性があり、その場合にはユーロが更に大きく下落するだろう。他方、2,000 億ユーロに達しない規模の場合には反対に、ユーロが買い戻されるだろう。但し、ABS・カバード債券買取規模が小さくなると、低インフレ・景気鈍化の中でむしろ量的緩和導入期待が更に高まることから、ユーロの上昇は限定的となるだろう。

ドル/円相場は昨日の唐突な大幅調整の後、利食い売りと押し目買いが交錯する一方で、明日に雇用統計発表を控えて一方向にポジションを傾けにくく、結果として 109 円丁度を挟んで動きにくい展開となるかもしれないが、材料としては引き続き Fed 高官発言に注目したい。ハト派で来年投票権がある Lockhart 総裁は、9 月 25 日に既に、利上げ開始が来年後半にずれ込む可能性を指摘していたが、ややハト派で常に投票権がある Dudley 総裁は 9 月 22 日、一段の経済の強さの確証を得るまで利上げを見送るべきとは述べていたが具体的なタイミングに言及していなかったため、今回、15 年央以降と述べる場合にはドル売り、逆に 15 年 1Q あるいは春の可能性を示唆する場合にはドル買いとなりそうだ。もう一つの論点はドル高関連で、両社は既にドル高の影響を指摘していたが、更なるドル高が利上げ先送りに繋がる可能性を示唆するようだと、ドル売りに繋がるだろう（当社作成資料「[最近の Fed 高官発言](#)」も参照）。

ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。

当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641